

受領No.1467

## 信頼される AI (trusted AI) に関する 信認関係の継続的な構築における法的課題の研究

代表研究者 奥乃 真弓 尚美学園大学大学院 総合政策研究科 教授

### Study of Legal Issues in Continuous Construction of Fiduciary Duties in Trusted AI

Representative Mayumi J. Okuno, Shobi University, Graduate School of Policy Management, Professor



#### 研究概要

AI・ロボット(以下、「AI」)が人間社会と共生していく上で、AIには高い信頼性が要求される。信頼性にはAI技術の高品質に加え、AIと利用者との間にある情報格差を惹起する情報の非対称性を埋める信認関係の継続的な構築が不可欠である。これまでに、会社法の観点から、AIが遭遇する不法行為や損害賠償に対して、AIの法人格付与、すなわちAIを製造・保有するための会社の設立を提案してきた。本研究課題では、会社組織による枠組みに対する信認関係の継続的な構築における法的課題について研究を行う。まず、会社設立におけるリスクを洗い出し、出資者の責任について検討を行うとともに、path dependenceの観点から会社設立が妥当なことを検証する。次に、比較法の観点からステークホルダーによるモニタリングについて検討を行い、信頼されるAIでの信認関係の継続的な構築のための問題点を精査し、技術的な課題から法的な課題にフィードバックする。また、継続的な信頼の構築のために法的な「開示」の果たす役割を明らかにする。本研究を通じて、人々のAIに対する不安を軽減し、AIの社会実装がスムーズに展開できることが期待される。